

第2回オンライン高校生模擬裁判選手権実施要項

主催：札幌和男研究室（岡山理科大学教育学部中等教育学科国語教育コース国語科教育研究室）

後援：龍谷大学犯罪学研究センター、京都教育大学附属高等学校模擬裁判同窓会

1 本大会のねらい

- (1) 法的思考力や刑事（裁判員）裁判の意義の理解にとどまらず、広く人間や社会までを視野に入れた文学模擬裁判を通じて、人間や社会を考える眼差しを深める。
- (2) 「国語的・文学模擬裁判」という新しい教育手法を通じて新学習指導要領の理念でもある主体的・対話的で深い学びを実現する機会とする。

2 日時場所

- (1) 実施日 2021年12月19日（日）
- (2) 実施方法 ZOOMによるオンライン（参加者は自宅等から出場する）。

3 出場校

応募により12校～16校募集。先着順。

4 競技方法

参加校は、予め配布される文学教材や関連資料をもとに、検察側・弁護側それぞれの立場に立って立証・弁護活動を行う。シナリオ創作型の模擬裁判である。

参加校は決められた時間に従い、立証・弁護活動を行い、審査員がそれらの内容を評価して、その総合点で勝敗を決める。参加校は検察側・弁護側両方の立場で模擬裁判を行うことになる（午前中の試合で検察側を担当したチームは、午後弁護側を担当する。逆に、午前中の試合で弁護側を担当したチームは、午後弁護側を担当する）。総合点の高い順から優勝校・準優勝校・第3位を決める（予定）。

5 採点基準

読解力、人間や社会への洞察力、論理性、表現力等の視点から採点する。

6 各チーム人員

1試合に必要な生徒数は、検察側・弁護側いずれの立場でも最低3名である（被告人役、証人役は生徒が行う）。当日参加する選手の人数は検察側・弁護側それぞれ7名以内計14名までとする。

7 費用

参加費は無料。

8 準備活動について

参加校確定後、教材及び具体的なルールや実施方法を記載した書面を参加各校に送付し、争点についての立証・弁護方針を定め、証人尋問、論告・弁論等の準備をする。模擬裁判初心者でも、模擬裁判を行うにあたり必要な学ぶ機会を設ける。10月上旬より大会前まで週末を中心に必要な講義授業をZOOMで配信する（10回程度を予定）。できる限り参加することを求めるが強制はしない。各講義について参加できなかった生徒・高校については、各講義を録画したものを配信、データアップロード、USB等の記録媒体に入れて送付するなどの対応をする予定である。また模擬裁判に初めて参加するにあたって準備するためのサポート体制を敷く。

参加校は12月12日（日）までに出場選手名（検察側・弁護側チームメンバー名および役割）を主催者まで連絡する。

9 参加条件

次の3つの条件を満たすこと。

- (1) 学校長の許可を得ること。
- (2) 趣旨に賛同できること。
- (3) ZOOM利用にあたり保護者の同意を得ていること。

10 当日のスケジュール（予定）

- 9時30分 Z o o m入室開始（各自宅等でスタンバイ）
- 9時40分 開会式、出場校紹介、選手宣誓
- 10時00分 対戦校及び立場（検察側・弁護側）の発表、各法廷Z o o mへ移動

- 1 0 時 3 0 分 第 1 試合開始
- 1 2 時 2 0 分 第 1 試合終了
- 1 2 時 2 0 分 昼休憩
- 1 3 時 2 0 分 第 2 試合開始
- 1 5 時 1 0 分 第 2 試合終了
- 1 5 時 4 0 分 講評
- 1 6 時 1 0 分 成績発表、表彰式
- 1 6 時 3 0 分 大会終了、振り返り交流会

11 その他

免責事項について、準備授業や当日の試合のレコーディングを行うが、そのレコーディングの使用については研究および教育活動以外には使用しない（肖像権について差支えある場合は事前に連絡のこと。可能な限りの対応を考える）。

教員に引率の義務は発生しない。

12 問い合わせ

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

札埜研究室（岡山理科大学教育学部中等教育学科国語教育コース）

fudano@ped.ous.ac.jp tel 086(256)9843

13 実施にあたっての Q&A

Q：10月上旬より大会前まで週末を中心に模擬裁判を行うのに必要な授業を ZOOM で配信するということが、具体的にはどのような内容ですか。

A：今回の趣旨は「公民科」で行うような単なる「模擬裁判」ではなくて、国語的・文学模擬裁判となっています。もちろん、法律的な学習や思考についての授業も配信しますが、それだけにとどまらず、法の主体である「人間」や、「社会」を広く深く考える授業も配信します。たとえば裁判官、検察官、弁護士の法曹界のかたの授業だけでなく、冤罪被害者、演技表現指導の専門家、研究者のかたの授業など広く人間や社会を考える授業を配信します。法律的な面や論理的思考に重点を置いた模擬裁判とは違うところです。

Q：締め切りはいつでしょうか。

A：講義配信の時期もありますので、令和3年9月末日に締め切る予定です。16校に到達した場合にはその時点で締め切りますので、9月末日前に締め切る可能性もあります。いずれにせよ参加を考えられる場合は早めの応募をお願い致します。

Q：配信される日時はいつでしょうか。この授業に都合で参加できない場合はどうなりますか。

A：講義の配信は、高校生の皆さんが視聴しやすい土日祝を中心に考えています。自宅で ZOOM を視聴できる環境が必要です。参加できない場合は後日録画動画を配信します。**ただ、この講義は、実際に ZOOM を通じて講師と皆さんが双方向でやりとりすることが予定されています。皆さんの質疑を大事にしながら講師の方々と皆さんと一緒に創り上げる講義授業にしたいと思っています。今回の大会準備の「肝」にあたります**ので、主催者としては、講義当日の皆さんの参加を期待しています。ぜひライブでご参加下さい

主催者プロフィール

大阪府生まれ。慶応義塾大学法学部卒業。博士（文学・大阪大学）。現場での教員生活31年（中学校2年・高校29年）。そのうち担任20回。最初の3年間は社会科教員であった（国語・社会・英語の中高免許状所有）。2017年4月より岡山理科大学中等教育学科に准教授として赴任。日本弁護士連合会主催の模擬裁判甲子園では、京都教育大学附属高校を過去11回大会中8回優勝3回準優勝に導く。龍谷大学犯罪学研究センター客員研究員兼務。「模擬裁判師」と名乗り模擬裁判を広めるために全国各地へ指導に赴く。三度の飯より模擬裁判を好み、模擬裁判指導歴は数百回に及ぶ。研究分野は国語科教育・法（言語）教育・方言学。

（主な著書&論文）

- ・「第1回オンライン高校生模擬裁判選手権の報告及びオンライン模擬裁判の実践的研究」（2021）法と教育学会編『法と教育』第11号 pp. 27-36
- ・「小説と模擬裁判の親和性—『高瀬舟』文学模擬裁判の実践より—」（2021）京都教育大学国文学会編『京都教育大学国文学会誌』第49号 pp. 31.-44
- ・『「総合的な探究の時間」に使える「文学模擬裁判」実践ブック 森鷗外『高瀬舟』を「国語的模擬裁判」で読み解く』（2021）公益社団法人日本教育公務員弘済会令和2年度日弘教本部奨励助成報告書
- ・「司法・行政における方言の課題」（2020）小林隆・今村かほる編『実践方言学講座第3巻 人間を支える方言』（くろしお出版）

- 「『羅生門』模擬裁判—小説を模擬裁判で読む」（2020）京都教育大学国文学会編『京都教育大学国文学会誌』第48号 pp.51-64
- ・『関西弁事典』（2018）ひつじ書房 真田信治監修「商談と関西弁」「関西弁と国語教育」「関西弁と法廷」「『もうかりまっか』『ぼちぼちでんな』」「関西弁と野球」執筆担当。
- ・「京都教育大学附属高等学校における高校生模擬裁判選手権の指導実践—京教モデル方式の提案」（2018）『法と教育』Vol.8 pp. 59-67
- ・「模擬裁判を使った国語教育」（2018）土山希美枝編『裁判員時代の法リテラシー 法情報・法教育の理論と実践』日本評論社 pp. 81-108
- ・「刑事司法へ『ことば・教育』にまつわる要求」（2017）指宿信他編『シリーズ刑事司法を考える第0巻 刑事司法への問い』岩波書店 pp. 173-178
- ・『法廷はことばの教室や！傍聴センセイ裁判録』（2013）大修館書店
- ・『大阪弁「ほんまもん」講座』（2006）新潮新書